



ソフトウェア アップグレード

[ソフトウェアアップグレード] オプションを使用すると、次のようなインストールとアップグレードを実行できます。

- **インストール/アップグレード:** アプリケーションソフトウェアのアップグレード、Cisco Unified Communications Manager ロケール インストーラとダイヤル プランのインストール、およびデバイス パック、電話機のファームウェア ロード、その他の COP ファイルのアップロードとインストールを行う場合に、このオプションを使用します。
- **TFTP ファイルの管理:** 電話機が使用するさまざまなデバイス ファイルを TFTP サーバにアップロードする場合に、このオプションを使用します。アップロード可能な TFTP サーバファイルには、カスタム呼出音、コールバック トーン、および電話機の背景画像などがあります。

ソフトウェアのアップグレードとインストール

ソフトウェアアップグレード ウィンドウでは、ローカル ソースまたはリモート ソースから Cisco Unified Communications オペレーティング システム ソフトウェアをアップグレードできます。

問題が発生した場合は、ソフトウェア アップグレード プロセスでアップグレードを取り消すこともできます。アップグレード用のソフトウェアをアクティブでないパーティションにインストールし、システムを再起動して新しいバージョンのソフトウェアに切り替えます。このプロセスの実行中に、アップグレードされたソフトウェアがアクティブなパーティションになり、現在のソフトウェアがアクティブでないパーティションになります。設定情報は、アクティブなパーティションにあるアップグレードしたバージョンの方に自動的に移行されます。

何らかの理由でアップグレードを取り消す場合は、システムを再起動し、前のバージョンのソフトウェアがインストールされているアクティブでないパーティションに切り替えることができます。ただし、この場合、ソフトウェアのアップグレードの後に変更した設定情報は失われます。

CAPF は、Certificate Manager Infrastructure を使用して証明書およびキーを管理します。このために、CAPF のキーと証明書は自動的に再生成されます。その後 CTL Client アプリケーションを再実行し、CTL ファイルをアップグレードする必要があります。



(注)

2つのノードのクラスタを使用しており、ノード A がパブリッシャ サーバで、ノード B がサブスクリバ サーバの場合、ノード A をアップグレードしてから、ノード B をアップグレードする必要があります。アップグレード時に、特定のファイルおよびデータベース コピーがノード A からノード B に転送されます。また、ノード A でフレッシュ インストールを実行してから、ノード B でアップグレードを実行することはできません。

アップグレードに関する考慮事項



ヒント

Cisco Unified Presence 6.0(1) への移行と、その他の必要な設定手順の詳細については、『Cisco Unified Presence 導入ガイド』を参照してください。

Cisco Unified Presence 6.0(1) にアップグレードする場合は、次の考慮事項を留意してください。

- 関連する Cisco Unified Communications Manager を Release 5.x から Release 6.0(1) にアップグレードする場合は、まず Cisco Unified Presence 6.0(1) にアップグレードする必要があります。Cisco Unified Communications Manager 6.0(1) を Cisco Unified Presence の前のリリースと同期化することはできません。
- Cisco Unified Presence クラスタを使用している場合は、そのクラスタ内のすべてのノードをアップグレードする必要があります。
- Cisco Unified Communications Manager を Release 6.0(1) にアップグレードした後、Cisco Unified Presence Sync Agent サービスを停止して、再起動する必要があります。Sync Agent サービスを再起動するには、Cisco Unified Serviceability に移動して、[Tools] > [Control Center - Network Services] を選択します。
- Cisco Unified Communications Manager を Release 6.0(1) にアップグレードした後、Cisco Unified Presence と通信するように Cisco Unified Communications Manager 上の SIP PUBLISH トランクを設定する必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』を参照してください。
- [Cisco Unified Presence の設定] ウィンドウで SIP トランクを有効にすることもできます。詳細については、『Cisco Unified Presence アドミニストレーションガイド』を参照してください。

- Cisco Unified Presence Release 6.0(1) にアップグレードした後、プレゼンス情報をサポートするために、ライン アピランスをユーザにマップする必要があります。Cisco Unified Presence 6.0(1) では、プレゼンス情報は、ユーザのプライマリ内線番号へのライン アピランスのマッピングに基づいていません。
- アップグレードに関するその他の考慮事項については、『Cisco Unified Presence 導入ガイド』を参照してください。

ローカル ソースから

ローカル ディスク ドライブに挿入された CD または DVD からソフトウェアをインストールし、アップグレードプロセスを開始することができます。



(注)

アップグレードプロセスを開始する前に、必ずシステム データのバックアップを行ってください。詳細については、『Disaster Recovery System ガイド for Cisco Unified Presence』を参照してください。

CD または DVD からソフトウェアをインストールまたはアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 アップグレード ファイルをダウンロードする場合は、次の手順を実行して CD または DVD を作成します。

- a. 必要なアップグレード ファイルを Cisco.com からダウンロードします。



(注)

ファイルを unzip または untar しないでください。実行すると、システムがアップグレード ファイルを読み取れなくなることがあります。

- b. アップグレード ファイルを書き込み可能な CD または DVD にコピーします。

ステップ 2 コピーした CD または DVD を、アップグレードするローカル サーバのディスク ドライブに挿入します。



(注)

アップグレード ファイルによっては、サイズが大きいため CD に書き込みきれず、DVD が必要になる場合があります。

ステップ 3 [ソフトウェアアップグレード] > [インストール/アップグレード] を選択します。

[ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ウィンドウが表示さ [ソース (Source)] リストれます。

ステップ 4 [ソース (Source)] リストから DVD/CD を選択します。

ステップ 5 [ディレクトリ (Directory)] フィールドに、CD または DVD 上のパッチ ファイルへのパスを入力します。

ファイルがルート ディレクトリに存在する場合は、スラッシュ (/) を入力します。

ステップ 6 アップグレードプロセスを続行するには、[次へ] をクリックします。

ステップ 7 インストールするアップグレードバージョンを選択し、[次へ] をクリックします。

ステップ 8 次のウィンドウで、送信されるファイル名やメガバイト数など、ダウンロードの進行状況を監視します。

ステップ 9 ダウンロードが完了したら、このチェックサム値と、Cisco.com に表示されているダウンロードしたファイルのチェックサムを照合します。

**注意**

アップグレード ファイルの信頼性と安全性が保証されるためには、これら 2 つのチェックサム値が一致している必要があります。チェックサム値が一致しない場合は、最新版のアップグレード ファイルを Cisco.com からダウンロードし、もう一度アップグレードを実行してください。

ステップ 10 アップグレードソフトウェアをインストールした後、アップグレードされたパーティションを自動的にリポートするかどうかを選択します。

- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを自動的にリポートするには、[アップグレードされたパーティションをリポート] を選択します。
- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを後日手動でリポートするには、[アップグレード後にリポートしない] を選択します。

ステップ 11 [次へ] をクリックします。

[アップグレードステータス] ウィンドウが表示され、アップグレードログが表示されます。

ステップ 12 インストールが完了したら、[終了] をクリックします。

ステップ 13 システムを再起動してアップグレードをアクティブにするには、[設定] > [バージョン] を選択し、[再起動] をクリックします。

システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが実行されます。

リモート ソースから

ネットワーク ドライブまたはリモート サーバからソフトウェアをインストールするには、次の手順を実行します。



(注)

アップグレード プロセスを開始する前に、必ずシステム データのバックアップを行ってください。詳細については、『*Disaster Recovery System ガイド for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

手順

ステップ 1 [ソフトウェアアップグレード] > [インストール/アップグレード] を選択します。

[ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ソース (Source)] リストから [リモートファイルシステム] を選択します。

ステップ 3 [ディレクトリ (Directory)] フィールドに、リモート システム上のパッチ ファイルへのパスを入力します。

アップグレード ファイルが Linux または Unix サーバ上にある場合は、指定するディレクトリ パスの先頭にスラッシュを入力する必要があります。たとえば、アップグレード ファイルが patches ディレクトリにある場合は、`/patches` と入力する必要があります。アップグレード ファイルが Windows サーバ上にある場合は、システム管理者が適切なディレクトリ パスであることを確認します。

ステップ 4 [サーバ (Server)] フィールドにサーバ名を入力します。

ステップ 5 [ユーザ名 (User Name)] フィールドにユーザ名を入力します。

ステップ 6 [ユーザパスワード (User Password)] フィールドにユーザ パスワードを入力します。

ステップ 7 [転送プロトコル (Transfer Protocol)] フィールドから転送プロトコルを選択します。

ステップ 8 アップグレード プロセスを続行するには、[次へ] をクリックします。

ステップ 9 インストールするアップグレード バージョンを選択し、[次へ] をクリックします。

ステップ 10 次のウィンドウで、送信されるファイル名やメガバイト数など、ダウンロードの進行状況を監視します。

ステップ 11 ダウンロードが完了したら、このチェックサム の値と、Cisco.com に表示されているダウンロードしたファイルのチェックサムを照合します。



注意

アップグレード ファイルの信頼性と安全性が保証されるためには、これら 2 つのチェックサム値が一致している必要があります。チェックサムの値が一致しない場合は、最新版のアップグレード ファイルを Cisco.com からダウンロードし、もう一度アップグレードを実行してください。

ステップ 12 アップグレードソフトウェアをインストールした後、アップグレードされたパーティションを自動的にリポートするかどうかを選択します。

- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを自動的にリポートするには、[アップグレードされたパーティションをリポート] を選択します。
- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを後日手動でリポートするには、[アップグレード後にリポートしない] を選択します。

ステップ 13 [次へ] をクリックします。

[アップグレードステータス] ウィンドウが表示され、アップグレードログが表示されます。

ステップ 14 インストールが完了したら、[終了] をクリックします。

ステップ 15 システムを再起動してアップグレードをアクティブにするには、[設定] > [バージョン] を選択し、[再起動] をクリックします。

システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが実行されます。



(注) Cisco Unified Presence Release 1.0(2) から Release 1.0(3) にアップグレードした後、LDAP 検索が Cisco Unified Personal Communicator で動作することを確認します。LDAP 検索が動作しない場合は、Cisco Unified Presence の管理で Cisco Unified Personal Communicator LDAP プロファイルを削除してから再作成します。詳細については、『Cisco Unified Presence アドミニストレーションガイド』の LDAP プロファイルの章を参照してください。

ロケールのインストール

シスコは、ロケール固有のバージョンの Cisco Unified Communications ロケール インストーラを www.cisco.com で提供しています。このロケール インストーラはシステム管理者がインストールするもので、これを使用すると、ユーザがサポートされているインターフェイスを使用するときに、選択した翻訳済みテキストまたはトーン（使用可能な場合）を表示/受信することができます。

ユーザ ロケール

ユーザ ロケール ファイルは、電話機表示用の翻訳済みテキストとボイス プロンプト（使用可能な場合）、ユーザ アプリケーション、およびユーザが選択したロケールの Web ページを提供します。ユーザ専用のロケール インストーラは Web 上にあります。

ネットワーク ロケール

ネットワーク ロケール ファイルは、国固有の電話機トーンやゲートウェイ トーン（使用可能な場合）を提供します。ネットワーク専用のロケール インストーラは Web 上にあります。

1 つのロケール インストーラに複数のネットワーク ロケールが組み合わされている場合があります。



(注)

Cisco Media Convergence Server (MCS) またはシスコ承認の、顧客が提供するサーバは、複数のロケールをサポートできます。複数のロケール インストーラをインストールすることにより、ユーザは複数のロケールから選択できるようになります。

クラスタ内のすべてのサーバをリブートしないと、変更は有効になりません。クラスタ内のすべてのサーバへのインストールが終了するまで、サーバをリブートしないように強くお勧めします。通常の業務時間後にサーバをリブートして、コール処理の中断を最小限にとどめてください。

ロケールのインストール

ロケール ファイルは、この章の初めの方で説明したソフトウェア アップグレードのインストール方法と同じ手順を使用して、ローカル ソースまたはリモート ソースからインストールできます。この手順の詳細については、「[ソフトウェアのアップグレードとインストール](#)」を参照してください。



(注)

新しくインストールしたロケールをアクティブにするには、サーバを再起動する必要があります。

インストールする必要があるロケール ファイルについては、「[ロケール ファイル](#)」を参照してください。複数のロケールをインストールしてから、サーバを再起動できます。

ロケール ファイル

ロケールをインストールする場合、次のファイルを両方ともインストールする必要があります。

- ユーザ ロケール ファイル：特定の言語と国に関する言語情報が格納されています。ファイル名の表記は、次のとおりです。

`cm-locale-language-country-version.cop`

- 複合ネットワーク ロケール ファイル：すべての国に対応した、さまざまなネットワーク項目（電話機のトーン、アナシエータ、およびゲートウェイ トーンなど）の国固有のファイルが格納されています。複合ネットワーク ロケール ファイル名の表記は、次のとおりです。

cm-locale-combinednetworklocale-version.cop

エラー メッセージ

ロケール インストーラをアクティブにするときに発生する可能性のあるメッセージの説明については、表 7-1 を参照してください。エラーが発生した場合は、インストール ログにあるメッセージを表示できます。



表 7-1 ロケール インストーラのメッセージと説明

メッセージ	説明
[LOCALE] File not found: <language>_<country>_user_locale.csv, the user locale has not been added to the database.	データベースに追加するユーザ ロケール情報が格納されている CSV ファイルが見つからない場合にこのエラーが発生します。これはビルドプロセスのエラーを示しています。
[LOCALE] File not found: <country>_network_locale.csv, the network locale has not been added to the database.	データベースに追加するネットワーク ロケール情報が格納されている CSV ファイルが見つからない場合にこのエラーが発生します。これはビルドプロセスのエラーを示しています。
[LOCALE] CSV file installer installldb is not present or not executable	<i>installldb</i> という名前のアプリケーションが存在することを確認する必要があります。 <i>installldb</i> は、CSV ファイルに格納されている情報を読み取って、ターゲットデータベースに正しく適用します。このアプリケーションが見つからない場合、アプリケーションが Cisco Unified Communications アプリケーションにインストールされていない（可能性は非常に低い）、削除された（可能性あり）、またはサーバに Cisco Unified Communications アプリケーション (Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unified Presence など) がインストールされていない（可能性が最も高い）ことが考えられます。データベースに適切なレコードが格納されていないとロケールは機能しないため、ロケールのインストールは中止されます。

表 7-1 ロケール インストーラのメッセージと説明 (続き)

メッセージ	説明
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices /ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maDial ogs_<ll>_<CC>.properties.Checksum.	このエラーは、システムがチェックサム ファイルの作成に失敗した場合に発生します。原因としては、Java 実行ファイルの /usr/local/thirdparty/java/j2sdk/jre/bin/java が存在しない、Java アーカイブ ファイルの /usr/local/cm/jar/cmutil.jar が存在しないか損傷している、Java クラスの com.cisco.ccm.util.Zipper が存在しないか損傷していることが考えられます。これらのエラーが発生した場合でも、ロケールは正常に機能します。ただし、Cisco Unified Communications Manager Assistant では、ローカライズされた Cisco Unified Communications Manager Assistant ファイルの変更は検出されません。
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices /ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maMes sages_<ll>_<CC>.properties.Checksum.	
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices /ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maGlo balUI_<ll>_<CC>.properties.Checksum.	
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices /ipma/LocaleMasterVersion.txt.Checksum.	
[LOCALE] Could not find /usr/local/cm/application_locale/cmservices /ipma/LocaleMasterVersion.txt in order to update Unified Unified CM Assistant locale information.	このエラーは、適切な場所にファイルが見つからない場合に発生します。原因としては、ビルドプロセスのエラーの可能性ががあります。
[LOCALE] Addition of <locale-installer-file-name> to the database has failed!	このエラーは、ロケールのインストール時に発生した何らかの失敗が累積されたために発生し、終了条件を示しています。
[LOCALE] Could not locate <locale-installer-file-name>	アップグレード時に、このロケールは移行されません。 ダウンロードされたロケール インストーラ ファイルが、ダウンロード場所に存在しません。プラットフォームで移動されたか削除された可能性があります。これは重大でないエラーで、Cisco Unified Communications アプリケーションがアップグレードされた後、ロケール インストーラを再適用するか、新しいロケール インストーラをダウンロードして適用する必要があることを示します。
[LOCALE] Could not copy <locale-installer-file-name> to migratory path.This locale will not be migrated during an upgrade!	ダウンロードしたロケール インストーラ ファイルを移行パスにコピーできません。これは重大でないエラーで、Cisco Unified Communications アプリケーションがアップグレードされた後、ロケール インストーラを再適用するか、新しいロケール インストーラをダウンロードして適用する必要があることを示します。
[LOCALE] DRS registration failed	ロケール インストーラを障害復旧システムに登録できません。バックアップまたは復元レコードにロケール インストーラは組み込まれません。インストール ログを記録して、Cisco TAC に連絡してください。

表 7-1 ロケール インストーラのメッセージと説明 (続き)

メッセージ	説明
[LOCALE] DRS unregistration failed	ロケール インストーラを 障害復旧システム から取り消しできません。バックアップまたは復元レコードにロケール インストーラは組み込まれません。インストーラ ログを記録して、Cisco TAC に連絡してください。
[LOCALE] Backup failed!	障害復旧システム が、ダウンロードしたロケール インストーラ ファイルから tarball を作成できませんでした。ロケール インストーラを再適用してから、バックアップの続行を試行してください。  (注) システムの復元の後にロケールを手動で再インストールしても、同じ結果を得ることができません。
[LOCALE] No COP files found in restored tarball!	バックアップ ファイルが破損していると、ロケール インストーラ ファイルを正常に抽出できないことがあります。  (注) ロケール インストーラを手動で適用すると、ロケールが完全に復元されます。
[LOCALE] Failed to successfully reinstall COP files!	バックアップ ファイルが破損していると、ロケール インストーラ ファイルが損傷することがあります。  (注) ロケール インストーラを手動で適用すると、ロケールが完全に復元されます。
[LOCALE] Failed to build script to reinstall COP files!	ロケールを再インストールするのに使用したスクリプトを、プラットフォームで動的に作成できません。  (注) ロケール インストーラを手動で適用すると、ロケールが完全に復元されます。インストール ログを記録して、TAC に連絡してください。

TFTP サーバ ファイルの管理

ファイルを TFTP サーバにアップロードして、電話機で使用するようにできます。アップロード可能なファイルには、カスタム呼出音、コールバック トーン、および背景画像などがあります。このオプションは、接続先の特定のサーバにのみファイルをアップロードするもので、クラスタ内の他のノードはアップグレードされません。

デフォルトでは、ファイルは TFTP ディレクトリにアップロードされます。TFTP ディレクトリのサブディレクトリにもファイルをアップロードできます。

クラスタ内に 2 台の Cisco TFTP サーバが設定されている場合、両方のサーバで次の手順を実行する必要があります。この手順を実行しても、ファイルがすべてのサーバに配信されるわけではなく、クラスタ内の 2 台の Cisco TFTP サーバにも配信されません。

TFTP サーバ ファイルをアップロードおよび削除するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理] ウィンドウで、[ソフトウェア アップグレード] > [TFTP ファイル管理] を選択します。

[TFTP ファイルの管理 (TFTP File Management)] ウィンドウが表示され、現在アップロードされているファイルの一覧が表示されます。ファイルをフィルタ処理するには、検索コントロールを使用します。

ステップ 2 ファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。

- a. [ファイルのアップロード] をクリックします。
[ファイルのアップロード (Upload File)] ダイアログボックスが表示されます。
- b. ファイルをアップロードするには、[参照] をクリックし、アップロードするファイルを選択します。
- c. TFTP ディレクトリのサブディレクトリにファイルをアップロードするには、[ディレクトリ (Directory)] フィールドにサブディレクトリを入力します。
- d. アップロードを開始するには、[ファイルのアップロード] をクリックします。
ファイルのアップロードが成功すると、[ステータス (Status)] 領域に表示されます。
- e. ファイルをアップロードしたら、Cisco TFTP サービスを再起動します。



(注) 複数のファイルをアップロードする場合は、すべてのファイルをアップロードした後に Cisco TFTP サービスを 1 度だけ再起動します。

サービスの再起動の詳細については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド for Cisco Unified Presence』を参照してください。

ステップ 3 ファイルを削除するには、次の手順を実行します。

- a. 削除するファイルの横のチェックボックスをオンにします。
[すべてを選択] をクリックしてすべてのファイルを選択するか、[すべてをクリア] をクリックしてすべての選択をクリアすることもできます。

- b. [選択項目の削除] をクリックします。
-



(注)

TFTP ディレクトリに存在するファイルを修正する場合は、CLI コマンドの **file list tftp** を使用して TFTP ディレクトリ内のファイルを表示し、**file get tftp** を使用して TFTP ディレクトリ内のファイルをコピーします。詳細については、[付録 A 「コマンドライン インターフェイス」](#) を参照してください。
